

房総半島の秘境 大房岬自然公園



こどもキャンプ2020夏

森と海を駆け回る

キャンプ

8月8日(土)～10日(月・祝)

千葉県南房総市・館山市 南房総国定公園 大房岬自然公園キャンプ場
(千葉県南房総市富浦町多田良1212-29)

房総半島から突き出し、周囲は海蝕崖と砂浜の小島の大房岬。
小高い山の岬は、動植物の宝庫の森に覆われ、サンゴに出会える美しい海に囲まれています。
大房岬自然公園の豊かな森と海を思い切り駆け回り、テントに泊まり、薪火で料理し、電気も無いので灯りも自分たちで作る、アウトドアキャンプ。

対象 宮城県気仙沼市在住在学 小学1年～中学3年 定員20名(超えた場合は、抽選)
参加費 小学生 18,000円(食費・活動費・保険代込) 中学生 18,000円+交通費 5,000円(合計 23,000円)
※交通費は小学生は全額、中学生は5,000円を超えるものは当会で支援(小学生約15,000円 中学生約30,000円)

申し込み/メール・電話で

氏名/学校名/学年/生年月日/住所/電話番号/PCからのメールを受信できるメールアドレスを明記下さい。

申し込み締め切り 7月14日(火)まで

主催・申込み先 **こども・わらずキャンプ楽会** 代表/渡辺和浩 東京都国分寺市北町1-17-6

メール/ info@codomocamp.com 電話 / 080-5389-2888 (19時以降)



プログラム 天候やこどもの様子で変更あり

磯遊び 海釣り 海水浴 シュノーケリング

サンゴやたくさんのお魚と出会うことのできる海。近くの港の岸壁はたくさん釣りがあつまる釣果スポット。

海・森の自然素材でアート

貝、木、石・・・大房岬は自然素材の宝庫。ビーチコーミングや、素材に絵を描いたり、自由にアートやモノづくりを楽しめます。

ナイトウォーク

房総に伝わる伝説を辿りながら、闇夜の海岸、森、滝、要跡跡をめぐります。夜の房総はとて神秘的、幻想的で、ちょっとスリルがあります。

スウェーデン・チづくり

フィンランドの「かがり火」から生まれた、切り込みを入れた丸太に直接火をつけて作る焚き火。炎が燃え上がる様子はとても綺麗。夜はこのトーチの火を囲んで過ごします。

地元食材と薪火での料理

房総は野菜、魚、果物と美味しい食材の宝庫です!

テント泊、直火・薪火で調理して過ごします。キャンプ場は最低限の電灯以外に電源は無いので、照明も自分たちで工夫します。入浴は、キャンプ場の温水シャワーを利用、2日目に南房総富浦ロイヤルホテルの温泉を利用予定。



●大房岬自然公園(南房総国定公園内) 岬に面する館山湾は海面が鏡のように穏やかで「鏡ヶ浦」とも呼ばれ、帆船が停泊する姿も見られます。湾に沈む夕日は「日本の夕陽百選」に選ばれる絶景。環境省の「海水浴場水質調査」で最高レベルの「AAランク」と認定されるほど水が綺麗で、周辺にはサンゴが生息、浅瀬にも生息し、素潜りやシュノーケリングで観察できます。時化た後には浜一面にたくさんの種類の貝が打ちあがることもあります。

豊かな森は虫の宝庫で野生動物も生息し散策すると探検気分。約一千万年前の火山の噴火で海底に堆積したものが隆起し、海蝕により今の姿になった「海蝕崖」、平安時代から枯れずに流れ続ける不動滝、不思議な伝説の残る「弁財天洞窟」など、秘境感が満載です。

そして大房岬は、黒船来襲の時代から太平洋戦争まで、東京湾を防衛する要塞が築かれた重要な軍事拠点で、昭和初期には軍部の方針などで地図から消されていました。今も当時の砲台跡、探照灯格納庫跡、魚雷艇基地跡、探照灯跡、発電所跡が遺されていて、戦争を語り継ぐ遺跡となっています。

昨夏の台風被害では多大な被害を受けましたが、スタッフ・ボランティアの尽力で、見事に復活しました。



主催団体/ こども・わらずキャンプ楽会 <http://codomocamp.com/>

震災直後から気仙沼市で長期ボランティアを行っていたメンバーを中心に、2011年の夏から12年までに、気仙沼・一ノ関で宿泊行事を9回、日帰り行事を12回開催。13年より以下の目的のもと、新たなこどもキャンプをスタートしました。

- 被災地のこどもが、被災体験を『負の記憶』だけにするのではなく、震災を機に『新たな人や体験、環境との出会いを得られた』と思える活動。
- こどもらしく伸び伸びと、自身の事を見つめながら成長してゆける場づくり、人間関係づくりの活動。
- さまざまな地域のこども・大人が、被災体験や暮らし地域の違いで分かれることなく、出会い関係を作ってゆける活動。

【過去の開催地】(冬キャンプ) 2014・15/栃木県那須町・森林ノ牧場 2016・17・18/栃木県那須町・那須町野外研修センター(春キャンプ) 2014・15・16・17・18・19/栃木県那須町・ツリーハウスビレッジ おだぎりガーデン (夏キャンプ) 2013/千葉館山市 2014/東京都奥多摩町 2015・16/千葉県南房総市・白浜フラワーパーク 2017/千葉県南房総市・みよし交流館 2018/山梨県北都留郡丹波山村 2019/千葉県南房総市・大房岬自然公園

■スケジュール(予定・変更の場合あり)■

- 8月8日 13時会場到着 テント設営 大房岬探索・磯遊び 房総半島・館山市・南房総市を学ぶオリエンテーション
- 8月9日 大房岬で各プログラム 温泉入浴 ナイトパーティー
- 8月10日 大房岬で各プログラム 14時会場出発

■集合・解散(予定・時刻は変更の場合あり)■

東北新幹線(東京駅乗換)と高速バスで移動。会場までスタッフが引率。
JR一ノ関駅 集合8日 am7:15頃 解散10日 pm8:00頃

■キャンプの進め方・考え方■

- プログラムはこどもが自分で選んだものに参加する形で進めます。大人が決めたスケジュールで、全員参加では行いません。自分の意志で考えること・決めることを大切にしています。大人もこどもも他者の考え、決めたことを尊重し、自分のやりたいことを行い過ぎます。
- 食事作り等、生活のことは全員参加で、協力・協働して行います。
- 金銭も含め、物品は基本的に自己管理で、責任をもって過ごします。
- こうして、自分と他者を尊重し、自分の意思を大切にしつつ、お互いを認め合う相互の肯定感の中で、協力しながら集団生活を送り、こどもが自信をつけてゆけるキャンプにしてゆきます。

こどもたちには、新型コロナウイルスの「関連健康被害」の方が問題

学校の休校、イベントが中止、緊急事態宣言による外出制限が続き、現在も今後の生活や社会活動がどうなってゆくのか不透明です。『こどもキャンプ』のような活動を今後も開催することに、不安を感じている方も少なからずいらっしゃると思います。

全国の感染者がピークだったとされる2020年4月1日の厚生労働省の『新型コロナウイルス感染症対策専門家会議』では、
●「学校については、現在の知見では、子どもは地域において感染を拡大する役割を殆ど担っていないという情報を得ている。従って、学校については県という大きなくくりではなく、地域や生活圏ごとの蔓延の状況を踏まえて、判断していくことが重要」としています。

また、2020年5月20日の日本小児科学会の『小児の新型コロナウイルス感染症に関する医学的知見の現状』では、
●患者の中で小児が占める割合は少なく、そのほとんどは家庭内感染である。
●現時点では、学校や保育所におけるクラスター（集団感染）はないか、あるとしても極めてまれと考えられる。
●小児では成人と比べて軽症で、死亡例も殆どない。
●ほとんどの小児症例は、経過観察または対処療法で十分とされている。
加えて、
●教育・保育・療育・医療福祉施設等の閉鎖が子どもの心身を脅かしており、小児に関しては新型コロナウイルスの関連健康被害の方が問題と思われる。ともしています。

自粛による生活の激変はこどもたちに多大なストレスを与え、子どもたちの行動や様子に変化が現れていると各種の報道や情報から伝えられています。こどもたちのストレスや、活動不足による体力の低下は、一時的な問題でなく将来に渡り影響が残る問題だと考えます。今後の生活も自粛や不自由さを伴うことが予想され、時間を経るごとに深刻な問題になる可能性があります。

人間関係は「人と人が双方向で、感情や考えを交わせ、心を動かしあい、様々な心揺さぶられる経験して成長してゆくこと」

ウイルス性感染症の一種の新型コロナウイルスは、インフルエンザ等と特徴が似ていて、今後も感染リスクをゼロになることは難しいと考えています。今後の社会や暮らしを考えてゆく中でも、将来あるこどもたちの成長の環境をより良いものとしてゆくことは大切な課題で、私たち『こどもキャンプ』の活動も、その一端の中で今後の活動を考えてゆく必要性を感じています。

短期的支援では、自粛、休校措置が続きストレスを溜め込んでいるこの時期に、心身を開放し体を動かし、できる限りのびのびと過ごせる環境が必要とされていると思います。

また自粛生活は、『人との関わり』『人との直接的なコミュニケーション』を避けるようになりました。
●人間関係の醍醐味は『人と人が双方向で、感情や考えを交わせ、心を動かしあい、様々な心揺さぶられる経験して成長してゆくこと』だと思います。その経験から、自分を知り、他者を知り、自分の世界を広げて成長してゆく。でもその経験や醍醐味を自粛生活により奪われ、今後も制限されかねない状況です。長期的にはそういった、こどもの成長に不可欠な人との関わり、環境を作り出してゆくことが必要だと思います。

『こどもキャンプ』は2011年夏の活動開始時から、
●自然の中で『心身の解放』を図る。
●こどもらしく伸び伸びと、自身の事を見つめながら成長してゆける場づくり、人間関係づくりの活動。

を目的に活動を続けてきました。具体的には、
・自然豊かな会場での活動 ・過ごし方を自己選択することにより、のびのびと心身の開放を図る
・食事づくり等、他者との協働作業で人とかがわり協力することを体験する
・被災地だけでなく、いろいろな地域の大人やこどもと出会い、新たな人間関係を構築する

というキャンプを一貫して続けてきました。
こんな私たちの『こどもキャンプ』、には今後の暮らしや社会生活の中で失われかねない、大切なものがたくさん存在し、こどもたちの長期的支援に必要なことだと考えています。

新型コロナウイルスに関して

感染を防止するための対策について

文部科学省から令和2年6月16日に出された『学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生マニュアル』では、
・換気の悪い『密閉空間』
・多数が集まる『密集場所』
・間近で会話や発声をする『密接場面』、をできるだけ避けることが望ましい、としています。また感染源を断つこと（事前・活動中の健康チェック）、感染経路を断つこと（手洗い／咳エチケット／消毒の励行）、抵抗力を高める（十分な睡眠、適度な運動、バランスの取れた食事）としています。

これを踏まえ、『こどもキャンプ』では感染防止対策について、以下のように考え、取り組んでゆきます。
●『こどもキャンプ』の活動場所は、自然豊かで広々とした場所を毎回会場としています。『密閉』『密集』『密接』を避けるために十分な広さと環境を準備できています。
●キャンプ前に体調の違和感の有無を十分確認し、キャンプ中もこまめに参加者の体調チェックを行い、手洗い、マスクの着用、消毒に努め、キャンプでの感染源・感染経路を無くすために十分な対策を行います。
●キャンプ中は十分な睡眠・休養、きちんとしたバランスの取れた食事の提供を心がけ、こどもたちの抵抗力を十分に高め活動できるよう取り組みます。
またウイルスは、ステンレスやプラスチックなど人工物の上や、空間的に拡散して薄まらない密閉空間などで、低温に保たれば長時間生存する傾向があるが、日光や水、空気と密接に影響しあった自然空間では、土壌に吸着され、他の微生物との競争に晒され、病原体抑制機能が働くと言われています。広々とした自然豊かな空間は、ウイルスの感染や影響をより受けにくい環境とも言えます。

特定のリスクに偏らない、バランスの取れたリスク管理を

今回の緊急事態宣言、自粛は、新型コロナウイルスの被害を減らすために行われました。一方でこの自粛で、高齢者は自宅に閉じこもることで体力が低下したり、認知症が進んだり、病気にかかり重症化しやすい状態になった人も増えています。経済的に困窮する人もたくさん生まれ、自殺が増えることも危惧されています。こどもたちのストレス増大、体力低下も同様に問題視されています。

●私たちの日常生活は、意識をしていますが様々なリスクに囲まれています。例えば、『家から出かけて街を歩くこと』（交通事故や暴漢、スリに合って被害を受けるかもしれない）、『交通事故』（去年は交通事故で3,200人亡くなり、46万人が負傷し、たくさんの人が重度の障害を持つ人となっている。1992年には11,400人が亡くなっている）、『ワクチン接種』（新型コロナウイルスで待望されているワクチンも、副作用としてわずかな人数ですが障害や死亡といった事故が必ず起きている）、『インフルエンザ』（日本だけでも毎年約3千人が亡くなり、インフルエンザから他の病気を誘発して亡くなる人を含めれば毎年1万人が亡くなっている。ちなみに新型コロナウイルスで亡くなった人は6月20日現在で935人）は、とても身近にあるリスクです。

それでも私たちは、出かけて楽しむことはリスクを超えるメリットがあるから、安全対策をしたうえで皆出かけています。車の使用も止めません。リスクを超えるメリット（個人の楽しみ、経済の活性化、社会の利便性等）があるから、「交通法規」という安全対策をして車の使用を制限はしません。ワクチンも同様に、リスクがあることを分かったうえで、打った方が社会全体としては利益があるということで、公的に予防接種を行っています。インフルエンザも、毎年病院や福祉施設では面会制限を行い、学校では学級閉鎖というリスク管理を行っていますが、新型コロナウイルスのような自粛、緊急事態宣言は行いません。

●一つのリスクを減らすための行動は、一方で別のリスクを増やすことが避けられません。特定のリスク、被害だけに着目して偏った対策をすると、別のリスクによる被害がそれを上回ってしまうかもしれません。いろいろなリスクと、メリットを、バランスよく考えることが必要になります。

『こどもキャンプ』も、薪で火を焚き、包丁や刃物を使い、様々な道具を使い、海や森、川という自然の中で活動します。怪我や事故というリスクの中で過ごします。キャンプでは安全対策をきちんと行ったうえで、こどもたちにリスクも抱えながら様々な活動をしてもらいます。なぜなら、経験から得られる貴重な経験と能力があるからです。リスクとメリットを考えると、対応することを『こどもキャンプ』の活動から学んでもらえると考えています。